

令和５年度 社会福祉法人ポレポレ 事業活動報告書

法人全体のまとめ

賃金アップを提唱する政府の動きの中で、障害・介護業界では、予算の増額や、処遇改善の臨時特例交付金が出る等の改善処置がされました。しかし、長引く金融緩和政策の中で、円安に歯止めがかからない現状が、物価の高騰を生み出しており、目覚ましい賃上げの大企業以外の 70 パーセントを占める中小零細企業に働く労働者の実質賃金は、目減りしているという状況下、自民党の裏金問題、イスラエルとハマスの戦闘によるガザでの虐殺・ロシアとウクライナの戦い等、国民生活の先行きに直接的及び間接的に不安の影を落としている令和５年度の日本や世界情勢の中で、ポレポレは、それでも職員の努力で、一步一步前に歩む活動を次のように進めました。

令和５年度の活動報告及び課題（●印）

1 賃金の改定を行った

① 愛知県の最低賃金の引き上げに伴う時給アップ

「時給 1027 円」の最賃に伴い、10 月よりポレポレでは「現行 1030 円」を「1050 円」に引き上げた。

① 常勤職員の一時金の引き上げ

○夏 「1.0 か月」から「1.5 か月」に

○冬 「2.0 か月」から「2.3 か月」に

※ 年間「3.0 か月」から「3.8 か月」に引き上げた。

②令和６年２月～５月期間限定の「福祉・介護職員処遇改善特例交付金」に伴う賃金アップ

○令和６年２月・３月 施設内理事を除く常勤職員に一時金として 0.2 か月を支給した（これにより、一般常勤職員の一時金は、年間 4 か月に達した）

○令和６年４月～５月の期間限定で 非常勤職員の時給を 30 円アップとした。

③ 常勤職員の資格手当の引き上げ

資 格 名	現行資格手当	令和６年改定資格手当
保育士・介護福祉士	6,500 円	10,000 円
社会福祉士・精神保健福祉士	8,000 円	15,000 円
准看護師	9,500 円	20,000 円
看護師	11,000 円	30,000 円
管理栄養士	5,000 円	5,000 円

④ 愛知県の最低賃金の引き上げに伴い、常勤職員の賃金体系の見直しを行った。

○これに伴い、年齢層の低い職員の基本給の改善が行われた。

● 賃金体系の中での 40 歳から 50 歳の年齢層の賃金等まだまだ改善や検討が必要である。

2 人材確保への取り組み

- ① 生活介護事業所に新卒者1名入社（社会福祉士取得者）
- ② 地域の高校生を対象として、高校生が福祉施設の仕事を通してアルバイト料を支払われつつ、初任者研修を無料で取得できるように応援する「一般社団法人アスバシ」の主催である「介护プログラム」に参画することとした。引きこもりがちであったり、将来の目標がみえにくい高校生が、福祉の仕事を通して、自分自身の力を見つめる機会となり、将来の目標を見出し、社会に出ていくように応援をするこの活動への参加は、即人材確保とは結び付かない活動だと思われるが、将来、今以上に人材不足が見込まれる状況下、高校生の人材確保に向けて、障害福祉や介護福祉業界の仕事を高校生に知ってもらう意義は深い。
- ③ 無料配信のジョブメドレーやハローワークへの求人も行っている。複数の面接をしたが、ほとんどが中途採用者で、条件が合わずに採用までには至らなかった。
- ④ 日進市内でのハローワーク主催の「就職フェア」に参加したが、障害者福祉の仕事への理解に不安があったり、若い職員確保につなぐことが困難だった。

●高校生の人材確保に向けて努力をする等、若い職員の確保を目指す必要がある。

3 第3回ポレポレ祭りを開催し、組織強化と地域共生を進めた

- ① 11月4日（土）にコミュニティーガーデン四季の里で「第3回ポレポレ祭り」を開催した。常勤会議を実行委員会と位置づけ、9月から準備を始めた。事務局の役割と各事業所の役割分担・常勤の担当等、役割分担を明確にしながら進めることが出来、まつりを通して組織強化を目指した。次の開催の土台をつくった祭りとなった。
- ② 「地域に開かれた福祉施設」をイメージし、今回は、地域の方々を福祉施設に招き、ステージ・模擬店・遊びの広場・ワークショップ・喫茶店・事業所の展示（ポレポレ全体とグループホーム・NPO法人なかまの家）で盛り上げた。参加者は、500人で賑わった。参加して下さった地域や各団体・市長や県会議員の皆さん行政の方々が、久しぶりに会ったとして、喫茶や庭でおしゃべりに花が咲く様子があちらこちらで見られたことが好評で「地域に開かれた福祉施設の暖かいイメージ」を夢見ることが出来た。
- ③ 前理事長の書道の文字を印刷した「ポレポレまつりのタオル」を記念品として参加者にお渡しできた。

●椅子が少ない・駐車場が足りない等の課題も見えた。

4 就労継続支援B型事業所の新築移転の推進

- ① 理事会評議員会にて、就労継続支援B型事業所（定員20名）の施設の老朽化にともない、施設を新築移転することが決定された。
- ② それに伴い、750坪の土地の取得が確定。地主さんとの仮契約をかわし、土地代金の一部を支払った。

- ③ 施設建設に向け、愛知県と国に「社会福祉施設等施設整備費補助金」の申請を行うために日進市に報告と支援を求めた。
 - ④ 施設は、就労継続支援 B 型事業所（20 名定員）と生活介護支援事業所（定員 10 名）とする方向が確定
 - ⑤ 設計事務所と契約・申請書類に必要な基準を満たした設計図づくりの検討を進めている。
 - ⑥ 資金計画を作り、日本福祉医療機構に融資相談をかけた。（7 月に再度書類提出を行う）（愛知県社会福祉協議会への融資も検討中）
 - ⑦ 建設に必要な現況地形測量・許認可申請業者の選定及び伐採、伐根の土木業者の見積書依頼等を行った。
 - ⑧ 就労継続支援 B 型事業所ポレポレハウスの利用者のご家族に、「移転計画の説明会」を行った。
- 資金計画の再度の検討や寄付金の取り組みへの準備及び、施設の全体の構想等、まだまだ課題は多い。

5 キャリアアップと支援力の向上を目指す取り組み

① 研修

イ 市内 4 法人の合同研修会開催 テーマ「障害者への虐待ゼロをめざして」全職員参加で行われた。「講師 社会福祉法人 樫の木福祉会 氏」

ロ 各事業所研修の実施

放課後等デイサービス（3 事業所合同）：テーマ別研修（5 回開催）

生活介護ハーモニー：消防署指導による AED の使い方（救急救命研修）

就労継続支援 B 型ポレポレハウス：新しい商品開発について

共同生活支援なしの木ホーム：消防署指導による①避難訓練研修

②AED の使い方

ハ ポレポレ全体研修

7 月 29 日（土）「障害者の人権を考えると身体拘束適正化に係る指針」の学習会を 60 名の参加でおこなった。

② サービス管理責任者取得研修

事業所運営に欠かせないサービス管理責任者基礎研修を生活介護事業所職員 1 名が参加。

2 年後実践研修を経て、サービス管理者を取得する。

③ ヒヤリハットの共有

日常の中での支援（個別や全体）の気づき、虐待につながるヒヤリハット等を職員一人一人が記帳し、原因やその支援方法・結果の共有を職員間で行うことを「虐待防止ゼロ」に向けた、キャリアアップの重要な日常研修として位置づけた。

●ヒヤリハットや気づきの共有が、まだ各事業所の日常的な取り組みにはなっておらず、サービス管理責任者と管理者の合同会議で事例検討等、この課題の推進を日常化し、支

援の共有を深める 必要がある。

- 職員ひとりひとりが支援にかかわる自己目標をつくり、自己評価をしながら支援力の向上とやりがいを目指すことを目指にしたが、全体としてまだこの取り組みは弱い。来年度に成果を生み出したい。

6 働きやすい職場づくり

- ① 年次有給休暇取得率73, 1% で「愛知県働き方改革マイスター制度」ブロンズ認定を受ける。人員確保のために「ロゴ」を使うことが出来るようになった。

基本給だけではなく、働き甲斐のある職場としての発信に活用できるようにしたい。

- ② 出産した職員の権利保障に取り組む

現在育児休暇中の職員2名（内1名は令和6年7月職場復帰、1名は令和7年1月まで育休取得）・育児休暇終了後職場復帰で時短勤務中の職員が2名となっている。社労士の指導の下、法令順守で権利を守っているところで、少しずつ、女性の社会進出を後押しできる法人になってきている。

- 余裕の持てる職員の配置がない事業所、子どもの病気や、個々の職員の家庭事情などに対応する介護休暇の取得、時間有休の検討等、まだまだ改善の努力がいる事案が見え隠れする。引き続き、働きやすい職場にむけて、近代的な法人へと向かいたい。

7 共生の取り組み

- ① 「ポレポレハンズ後援会」が6月2日に発足した。

親の交流を主流の活動としながらも、障害者福祉の理解を深めたり、社会福祉法人ポレポレの事業への支援を目的に活動が開始された。自主組織で、現在は、40名の会員となっている。

親同士が支えあえる組織へと発展することを期待したい。

- ② 特定非営利活動法人なかまの家との連携

「障害者・高齢者・こども・大人」世代を超えてつながろうという当法人と理念を共有する NPO 法人なかまの家が「コミュニティーガーデン四季の里」の生活介護ハーモニーの施設を開放し、「土曜ひろば」の開催を継続した。（毎月第2土曜日 10：00～14：00 令和5年5月より開始） 福祉施設には、入りにくいという声がある中、少しずつではあるが、地域の高齢の方も顔をのぞかせてくれるようになってきた。この活動が、就労継続支援B型ポレポレハウスの移転建設の際の「地域に開かれた福祉施設」づくりへの後押しとなることを期待したい。

8 ポレポレの事業に職員が主体的に取り組むことが出来る活動の推進

地域連携活動の中でポレポレ祭りが職員の主体的取り組みとして成果を上げた。

他の事業（分野別課題）は担当が不明確だったこともあり、目標の共有や推進に成果が見られなかった。次年度には役割を明確にし、職員の主体的参加でポレポレの事業の発展と充実を作りたい。

就労継続支援 B 型事業 ポレポレハウス

1 利用者状況 (定員 20 名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計
開所日数	21	18	23	21	20	21	22	22	21	20	21	22	252
延利用者数	376	313	383	364	349	373	386	374	368	366	364	387	4403
1 日平均利用者数	17.9	17.4	16.7	17.3	17.5	17.8	17.5	17	17.5	18.3	17.3	18.4	17.5

登録利用者数 3 月現在 (20 名)

障がい程度区分 区分 1 (0 人) 区分 2 (1 人) 区分 3 (7 人)
 区分 4 (5 人) 区分 5 (2 人) 区分 6 (1 人)
 区分判定なし (4 人)

2 活動報告

- 1 物価が高騰している中、食品部門の商品も販売価格を値上げして販売、お客様からの反応は、世の中の情勢として受け入れられている。
- 2 日進市内の中学校の職場体験実習生を 5 名、令和 6 年度の利用希望者 2 名の実習を受け入れ実施した。
- 3 令和 5 年度 3 名の利用者との利用契約を交わした。1 名は令和 5 年 11 月利用契約。
- 4 職員 1 名 (非常勤職員) が年度末で退職。令和 6 年度の職員確保として 2 名 (非常勤職員) 契約を年度内に行った。
- 5 老朽化により 2 号館と 3 号館の建物で雨漏りがしている状況で改修ができておらず、天井が破損している箇所もでてきたため早急な対応が必要となってきた。
- 6 白衣等の着衣を見直し、更新することで食品衛生意識が高まるように意識付けし、作業効率も向上できるように見直しを実施した。
- 7 利用者の想いに寄り添い、利用者の希望をできるだけ実現できるように支援をするという基本に立ち、全職員で支援内容を共有している。
- 8 施設内給食を週 4 日に増やして、火曜日から金曜日まで提供するようにしている。
- 9 利用者研修として、毎週金曜日の午後に利用者や職員とのコミュニケーションを図る目的で、いろいろな講座や誕生日会などのレクリエーションを実施している。

3 成果

- 1 登録者数が 20 名になり、平均利用者数が伸びてきている。
- 2 惣菜班の利用者が作業に慣れてきたことで、作業の段取りがよくなり余裕ができてきた。
- 3 工房班の作業の商品化を目指して取り組んでおり、少しずつではあるが形になってきている。
- 4 白衣等を更新したことで、利用者の美味しいものを作ろうという食への責任感が育ち始めている。

- 5 工房班では、作業時間と休憩時間をスケジュール化し、落ち着いて作業に取り組んできている。

4 今後の課題

- 1 利用者の高齢化や体調不良等で、1日の利用者数が昨年度より平均で減少している。20名定員がなかなか達成されない。契約者数を増やす必要がある。
- 2 惣菜班の担当職員が1名なので、休暇の時の職員配置に困難が生じ、継続をするには、専属の料理人配置の必要が見えてきた。
- 3 体調不良や家庭の事情等で職員が有給休暇を取得した際、休假日の代替え職員の配置が難しく、職員の負担感が大きかったので、安心して勤められる職場環境を作る必要がある。
- 4 工房班の作業で生み出された商品を、お客様に知っていただく機会が少なく、販売方法や販売時の提供の仕方に工夫がいる。
- 5 支援の方法で、一人一人の人権を尊重するという意思決定の支援が求められており、個々の生きづらさに対し、支援力を結集し、チームで共有を深めていく必要がある。
- 6 販売に行きたいと希望する利用者の気持ちを大切にして、販売の機会ができるだけ希望者に設けられるようにし、地域の方々と障害のある方の一人一人を知っていただく場にしていけると良い。
- 7 「区分認定の高い利用者が多いことに鑑み、支援を更に充実するために、多機能型事業所も検討する。」という課題を持ち越している。何が利用者にとって一番良い選択なのか計画を模索する必要がある。
- 8 新型コロナウイルス感染症の対応方針が変わったことにより、イベントなどが再開しているが、イベント参加時にどうやって感染症対策をしていくのか、環境整備が課題となっている。
- 10 移転計画が実現するための資金を確保するためにも、収入の財源である1日定員20名を就労面、生活面で支援できる人的な力を高めることが求められている。

生活介護事業 ハーモニー

1. 利用者状況 (定員 20 名)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開所日数		20	20	22	21	20	21	22	22	20	20	21	21	250
延利用者数	区分 4	47	44	50	48	45	47	46	44	39	35	40	40	530
	区分 5	175	169	185	164	155	154	172	171	160	150	150	165	1970
	区分 6	170	163	167	175	162	173	181	177	160	154	154	149	1985
	総数	392	376	402	387	362	374	399	392	359	339	344	359	4485

1 日平均 利用者数	19.6	18.8	18.2	18.4	18.1	17.8	18.1	17.8	17.9	16.9	16.4	17.1	17.9
---------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

- ・ 4 月 新規契約者 4 名
- ・ 8 月 退所利用者 1 名
- ・ 2 月 退所利用者 1 名
- ・ 3 月 退所利用者 2 名
- ・ 令和 6 年 3 月 31 日現在 登録者数 17 名（区分 4：2 名、区分 5：6 名、区分 6：9 名）

障害種別人数

障害種別	精神障害	知的障害 (自閉症含む)	身体障害	(若年性認知 症)	合計
利用者 (人)	1	15	1	0	17

2. 活動報告

(1) 利用者本位の支援

- ・職員は、利用者一人ひとりの障害特性に丁寧に向き合い寄り添い、20 名という集団生活の中であっても各々が自分らしく過ごすことができるよう支援をしている。
- ・「作業」と「余暇活動」、休憩時間とのメリハリをつけリズムのある日中活動の提示に努めている。
- ・職員は看護師と連携をして、日々利用者の健康状態（体重の増減や血圧の測定値、本人の状況）を観察記録をし、非常時にはすぐにご家族に連絡をする。

(2) 保護者との連携

- ・5 月、新型コロナウイルス感染症が 5 類とされた以降も施設内消毒を日常的に行い、手洗いとマスクの着用を徹底し、ご家族にもその旨、お願いをしてきた。
- ・4 月、保護者説明会を実施。ハーモニーの 1 年間の活動の説明をした。
- ・災害時引き取り訓練の実施。災害が起こった時まず、何をしたらいいのかをご家族と話す機会を設けた。

(3) 利用者の安全確保

- ・修理回数の増えていたボクシーを廃車とし、新しく公用車（ノア 8 人乗り）を購入した。
- ・四季の里の草刈りを日々行い、足元の安全を確保している。
- ・地震の避難訓練を毎月実施。
- ・日進市消防本部にて職員全員救急救命講習を受けた。

(4) 授産製品の販売

- ・5 月 7 月 2 月と年 3 回、ハーモニーマルシェ、11 月にはポレポレ祭りを実施。ワークショップという形で来場者に作業を体験してもらった。
- ・冬季、ハーモニーカタログ販売実施。
- ・喫茶営業
- ・NP0 法人なかまの家主催の土曜ひろばに喫茶を貸し出し、授産製品を販売してもらっている。

(5) 地域との連携

- ・愛知シュタイナー学園からの介護実習生の受け入れた（11年生）。
- ・地域の方に、「障害を持っている方もあたりまえに地域で生活をしていることを知ってもらいたい。」そんな思いを込めて、日常的に喫茶営業を行い、季節の折々にマルシェを計画している。音楽バンドを招待したり、地域のお店屋さん参加をしてもらうことで地域の方が足を運びやすいように工夫をした。
- ・地域の保育園や他事業所にも気軽に四季の里を訪れてもらえるように発信している。
- ・NPO 法人なかまの家とコラボ。第2土曜日の土曜ひろばで施設（喫茶を含む）及び四季の里の「共生の庭」を開放。地域の方に足を運んでいただく機会を設けている。

3. 成果

- ①クリスマスに利用者さんにボーナス（1人あたり1000円）を支給することができた。各班ともに利用者一人ひとりの障害特性に向き合い、作業支援にもあたってきた職員の努力の成果と考える。
- ②自分の思いを言葉で表現できづらい利用者の気持ちを察し、その力を見抜き、配慮して支援を行うことで、その方が力を発揮して作業ができる作業環境が提示できるようになってきた。
- ③ハーモニーの製品は、利用者が1つ1つ心を込めて作り上げた、温かみのある商品に仕上がっている。
またステップアップ班のクラフトバッグの製作については、マンツーマン支援が必要ではあるが、利用者本人の「頑張ってお仕事をしてお給料をもらいたい」という思いが頑張りの礎になっている。
- ④火水木金の週4日、利用者が作業訓練として喫茶で接客を行っている。

4. 見えてきた課題

- ①現在20名（うち男性10名）の利用者を受け入れているが、職員は管理者サビ管を含め17名。
うち男性職員は3名。同性介助を基本にしているため男性職員の補充が必要であるが、なかなか難しい現状がある。また、昨今増えている強度行動障害を抱えてしまっている方の支援については、本人の持っている障害特性と周囲の環境や関わり mismatches が大きいことによって現れることが多いため、環境を配慮すると同時にご家族様との連携も必要になり、さらに職員の支援スキルが要求されるところとなっている。
- ②今年度、強度行動障害を抱える利用者の支援のために別棟設置のための費用を予算計上していたが、送迎車が壊れてしまったため急遽その購入費用に充当した。
しかし、今後の利用者支援において必要であるため、改めて予算を確保し、別棟設置を考えたい。
- ③現在、車いすが乗車できる車はハイゼット1台。利用者が増えることを想定し普

通車への買い替えを考慮したい。

- ④「頑張ったことが当たり前に認めてもらえる社会」を構築したい。

『頑張った＝お給料もらった＝欲しいものが買えた＝嬉しい』が実現できる様、
まずはお給料を毎月支給できるようにし、ご家族とともに「どんなに重度の障害
を抱えていても頑張ることができる」ことを共有していく。

- ⑤法人内の事業所を利用されている方の入所を優先的に考慮しているが、実際受け
入れの難しいケースも出てきている。法人内で希望者が出た場合には早急に打ち
合わせを実施し、ハーモニーもニーズに応えられるように事業所間での連携を図
ることが必要と考える。

- ⑥ハーモニーマルシェ等イベント開催時だけでなく、日常的に地域の方と交流を図
り「誰もがあたりまえに暮らせる社会」づくりに貢献していきたいと考えている。

共同生活援助事業 なしの木ホーム

1. 利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		25	24	26	26	24	26	26	26	24	24	25	26	302
延 利 用 者 数	区分2	48	41	46	49	44	48	50	47	47	45	49	47	561
	区分3	25	21	25	26	22	26	24	24	24	24	25	26	292
	区分4	50	38	50	52	47	50	50	50	42	44	40	50	563
	区分6	25	24	24	26	24	25	26	26	24	24	25	25	298
	総数	148	124	145	153	137	149	150	147	137	137	139	148	1714
平均(人)		5.92	5.9	5.5	5.8	5.7	5.7	5.7	5.6	5.7	5.7	5.56	5.69	5.67

- ・利用者数：4月より6人定員満たされる（男性3名 女性3名）

- ・1日平均利用人数 5.6人

- ・現在営業日 月曜日～土曜日（土曜日朝帰宅 月曜日夕方帰所）

ゴールデンウィークやお盆休み時には自宅に帰られる方が多いため利用が少ない。

2. 活動報告

◇ひとり一人の願う自立生活 達成のため、「やりたい！」気持ちに寄り添い支援を行ってき
た。

①健康管理

- ・本人一人では受診が難しいため、認知症傾向の保護者と受診同行（看護師）をし、保護者の代わりに本人の病状を把握し、相談支援に都度報告をしている。
- ・てんかんが頻繁に起こるため、ポレポレハウスとも連携をし、発作の状況や様子について

て詳細に記録をし、医療連携室のドクターの訪問時に相談をしている。

- ・日中活動から帰ってからは各自シーツを変えたり、自室の掃除をしたり、曜日ごとに決めた内容で役割をもって行動している。特別な日課がないときは、職員と散歩に行ったり買い物に行ったりと、それぞれの生活を楽しんでいる。
- ・夜7時になるとMさんは必ずリビングで体操。Gさんはリビングにあるエアロバイクに挑戦する。
- ・食事についても常にヘルシーなメニューを手作りし、よく噛んでゆっくり時間をかけて食べられるような支援を心がけている。

②お金の管理

- ・部屋に給料袋が未開封のまま2年分おかれていた。
- ・お金のことにふれると嫌がる。お金を使いたくないからだと思っていたが、実はお金のことを理解できてなかったからかも…。机の上にもお金が放置。相談員さんに金庫を買ってもらったが使い方がわかっていない。
- ・お金はお財布に入れ、お店に行くときはもって行く習慣をつける。
- ・お金を正しく使うことを学び、使わないお金は通帳に入れる等すれば貯蓄でき、なくならないことを伝える。

③楽しい食事

- ・食べることはみんな好き。苦手なものも見た目の形を変えて提供することで少しずつ克服できている。
- ・季節の行事や誕生会などはリクエストを聞いてみんなでメニューを決める。
- ・誕生ケーキを本人にはサプライズで散歩がてら買いに行った。

3. 成果

◇定員6名が満員となった。

- ・一人ひとりの生活リズムが整ってきたためホームでの生活が安定してきた。

4. 見えてきた課題

- ①高齢化による健康管理の難しさ
- ②土日営業の必要性
- ③自分時間の使い方
- ④金銭管理（日常生活自立支援の活用）

併設型短期入所事業 チャレンジホーム

1. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用日数	0	0	3	18	8	6	14	13	14	10	14	15	115

延べ利用者数	区分3													
	区分4													
	区分5			3	18	2		2		2	2	2	2	33
	区分6					6	6	12	13	12	8	12	13	82
	実人数	0	0	2	1	2	1	2	1	2	2	2	3	4

- ・1日 定員1名
- ・現在登録者11名
- ・緊急目的利用 1名 （保護者死亡）
- ・定期利用者 3名

※利用者は区分5・6の方。本人の意向というよりご家族意向。

2. 活動報告

- ・法人内の日中活動事業所を利用されている方のみ受け入れている。
- ・緊急時のご利用は1件。保護者不在対応による定期利用1件（水・木）。宿泊訓練のための定期利用（第1金・第3金・第4金）。

3. 成果

- ・法人内の日中活動事業所を利用している方を利用条件にしているため、事業所間の連携、保護者との事前打ち合わせがスムーズにできおり、利用を重ねることにより、自分の居場所を見つけ、落ち着いて過ごすことができるようになる。
- ・なしの木ホームの入所者も事前に情報が分かるため、混乱することなく受け入れができています。

4. 見えてきた課題

①Hさんのケース（月に1回ご利用）

- ・初回利用時、なかなか玄関から入れず1時間ほど玄関付近を行ったり来たりしながらもやっとホームに入れた。結局、夕食も食わず、お風呂にも入れず、着替えもできずに来た時の服のまま布団の中に入り眠ることになった。朝もなかなか起きられず、お母さまが迎えに来てから起きることになったが、「何もできないことがルーティーンになっては困る」とお母さまがご飯を食べさせ、シャワーを使整ってって体を洗い、帰って行かれた。
- ・2回目利用時、あたかも1回目とは違った雰囲気で来所。ご飯も食べ、お風呂にも入ることができた。すべての動きは1回目よりもスムーズだった。

※※ショートステイを初めてご利用になる方は、「初めての場所」で「初めての人たち」がいて「初めての経験」をするわけで、不安でない理由がありません。

※※不安を丸ごと受け止めて、「一晩すごせたら○」と職員は思っています。

※※チャレンジホームは「家以外の場所で家族以外の人と過ごし寝る体験をする」ことを目的としています。「○○ができるように支援をする」場所ではありません。どちらかと

いえば、ご家族がいざというときに何ができていれば「家以外の場所で家族以外の人と過ごせる（寝る）」のか考える機会にさせていただきたいと思います。

※※生活習慣が身についており、生活リズムが整っておられる方は比較的問題なく過ごせています。

地域活動支援センター事業 わとと

今年度、地域活動支援センターわととの活動は休止いたしました。

児童発達支援事業 なかよし

(定員4名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	56	52	54	50	30	45	51	52	46	35	46	42	559
開所日数	12	12	12	8	9	8	9	9	8	8	8	8	111
1日平均利用人数	4.6	4.5	4.5	6	3	4	5	5	5	4	5	5	5

【利用者状況】

4月当初は母子通所が4名いたが5月には2名になり8月には1名となる。

保育園・幼稚園と併用で来ているため、保育園・幼稚園の行事が優先となり休むことがある。

【職員体制】

8h常勤パート1名

保育士 2名 (週2)

幼稚園教諭 1名 (週1)

指導員 1名 (週2)

2. 活動報告

- ・個別療育の部屋を用意することで、落ち着いた環境で個別療育ができている。

- ・主担任を配置し、療育内容が安定し提供できている。
- ・集団を意識した活動内容を会議や朝のミーティングで話し合うことが出来ている。
- ・四季折々の活動を行い、工作や活動に盛り込んでいった。また、支援員と子どもが触れ合って遊ぶふれ合い遊びを多く取り入れ、家庭でも出来る遊びを伝えてきた。
- ・夏は駐車場にプールを用意し水遊び体験を楽しむ。
- ・9月、遠足を実施。単独保育で東山動物園、モリコロパーク
- ・7月に個別懇談会を行う
- ・5月に日進市、相談支援に閉所の相談をする。
- ・クリスマスに日進市社会福祉協議会のサンタボランティアをお願いし、クリスマス会を行った。
- ・3月30日「なかよし」閉所のお別れ会を行った。

3. 成果

- ・昨年に引き続き中心になる職員を配置したことで、療育の内容を安定して提供できている。
- ・来年度1年生になる利用者に対しての相談や情報提供ができた。
- ・感染予防をしっかりと行い休業することなく営業できた。
- ・保護者との情報共有や相談など気軽に受けることが出来ている。
- ・広い部屋での活動が可能のため、身体を思いっきり動かした療育が提供できている。
- ・放課後等デイ「げんき」と連携を取り、長期休みでも営業ができた。
- ・3月末で閉所という形になり、保護者からは惜しまれる声が聴かれた。

放課後等デイサービス事業 げんき

1. 利用者状況

10名定員

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20 (15/ 5)	20 (18 /2)	22 (22/ 0)	21 (13/ 8)	20 (2/ 18)	22 (20/ 2)	22 (21/ 1)	21 (19/ 2)	20 (16/ 4)	20 (17/ 3)	21 (18/ 3)	21 (13/ 8)	250 (194/56)
延べ利 用者数	209 160/ 49	225 211/ 14	234 224/ 0	224 139/ 85	214 10/2 04	233 222/ 10	243 233/ 10	218 195/ 23	211 161/ 50	215 195/ 20	223 208/ 15	205 132/ 73	2654 2301/ 353
1日 平均数	10	11	10	10	10	10	11	10	10	10	10	9	10

カッコ内（平日/休日）

【新規利用者】

新一年生 7名 三好特別支援学校 5名 市内 2名

【登録人数】 21名

（学年内訳）中学生 3年 1名

小学生 5年生 2名、4年 4名、3年生 4名、
2年生 4名 1年生 7名

（市内内訳）日進市：16名 みよし市：1名 長久手市：4名

※新規 1 年生が 8 名入る。1 名が週 4 日利用。6 名が週 2 日利用。

ほとんどの利用者が他の事業所も利用している。

※平均利用人数は 10 名。曜日によっては 15 名受け入れる曜日がある。

※5 月に新規利用者が 1 名入る。

※夏休みだけ利用がない利用者がいるに対して夏休みだけ利用日数を増やす利用者もいた。

※後半になり新一年生の利用が増えて利用者が 2 名いた。

2. 活動報告

- ・夏休みは庭にて大きなプールを出して水遊びの活動を毎日午後から行うことが出来た。
- ・指導訓練室が二部屋あることで、利用者の活動に合わせて分かれて支援することができるようになった。そのことにより利用者は落ち着いて過ごせている。
- ・夏休み期間、児童発達支援事業所なかよしと共有する時間帯でふれあい遊びを一緒に行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策（定期的な換気、手洗いうがいの徹底、備品等の消毒など）を活動中も意識し徹底して行った。
- ・コロナが 5 類となりお出かけがしやすくなったので、愛知牧場、豊明消防署近くの公園に出かけることができた。
- ・6 月、10 月 11 月に保護者面談を実施する。学校の様子や家庭での過ごし方やげんきでの様子を話し、今ある課題や支援について話をした。
- ・毎月誕生会を行った。

<主活動の報告>

工作・・・はらぺこあお虫、父の日プレゼント、でんでん太鼓、七夕、風鈴、ピーチサンダル、うちわ制作、フォトスタンド、クリスマスリース、バレンタイン工作、つるしびな作りなど季節に合わせた工作に取り組んだ。
クッキング・・・毎週水曜日にその月に合わせたメニューを提供し、子供たちができる工程を考えおやつを作りました。

音楽活動・・・楽器を用意し、子供たちの好きな曲で楽器演奏を楽しんだ。

曲に合わせてダンスや体操を行った。ポレポレ祭りに向けてタオルルンルン体操の練習をした。

運動活動・・・室内では鉄棒、マット、トランポリン、バランスボールなどで身体を動かした。庭では砂遊び、なわとび、鬼ごっこなどで身体を動かして活動した。

夏休みには毎日プールを行った。

3. 成果

- ・新一年生が7名入り、まだ、身辺自立が出来てない利用者が多くいたが環境にすぐに慣れ落ち着いて過ごせることができた。
- ・十分な指導訓練室や環境整備が整っている。
- ・新たに入ったパート職員も介護福祉士を持っており、子育て経験者でもあり、戦力になって働いてもらえた。
- ・低学年層が多いため病気で休み事が多くみられたが、利用者の利用回数が減ることもなく、途中利用者1名も入り、平均10人で年度を終われた。
- ・2月に送迎車が動かなくなり、中古車だが購入できた。
- ・昨年度から求人募集をかけ、3回目で応募があったパートを採用する。
- ・児童発達支援事業所職員パートと連携をとり、人での足りない時間帯にヘルプとして入ってもらえる体制作りができた。
- ・三事業所連携を取り、職員欠員などの補充に協力しあえた。
- ・曜日の違うパートで休みを調整することができたので職員がコロナや入院等で休んだ時に助かった。

4. 見えてきた課題

- ・低学年層の利用者が増え、身辺自立支援が必要な利用者が多く支援内容の見直しをしていく。
- ・三好特別支援学校、瀬戸つばき支援学校、市内4ヶ所、東郷と学校により下校時間が異なることから一緒に行える活動ができない時があり、支援の流れなど工夫していく必要が出てきている。また、送迎に職員を配置してしまうと事業所内で待機している職員が必要になるので配置の工夫がいる。また、パート職員の補充をしていく。
- ・送迎車が1台13万km越えおり、車検が6月なので年度初め方購入に向けて動いていく必要がある。
- ・障害の特性など様々な利用者様に合わせた支援の向上の為、職員の支援スキルアップをしていく必要がある。
- ・加算の見直しにより、強度行動障害の研修を受ける必要性があるため職員配置を工夫し行かせたい。
- ・年齢層が低い為、病欠で休みが多く入るので、休みが入ることを見越して利用

者確保をしていく必要がある。

- ・新設して2年目であるが、施設の周りや園庭の整備をしていく必要がある。
- ・児童発達支援「なかよし」が閉所となり、施設内の指導訓練室の使い方の見直しをし充実した環境作りを考えていく。

放課後等デイサービス事業 えがお

(定員 6名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所 日数	20 (16/4)	20 (20/0)	22 (22/0)	21 (13/8)	20 (0/20)	22 (20/2)	22 (21/1)	21 (19/2)	20 (16/4)	20 (17/3)	21 (19/2)	21 (15/6)	250 (198/52)
延べ 利用 者数	125 (104/21)	125 (125/*)	132 (132/*)	132 (80/52)	118 (*/118)	138 (127/11)	137 (131/6)	142 (130/12)	126 (100/26)	132 (114/18)	144 (133/11)	136 (95/41)	1587 (1271/316)
1日 平均 利用 者数	6.3 (6.5/5.3)	6.3 (6.3/*)	6.0 (6.0/*)	6.3 (6.2/6.5)	5.9 (*/5.9)	6.3 (6.4/5.5)	6.2 (6.2/6.0)	6.8 (6.9/6.0)	6.3 (6.3/6.5)	6.6 (6.8/6.0)	6.9 (7.0/5.5)	6.5 (6.3/6.8)	6.3 (6.4/6.1)

カッコ内（平日／休日）

【登録者数】 17名（中学生12名、小学生5名）

昨年度からの変動は、3名が「デイサービスポレポレ」へ移籍、「げんき」からの加入が4名。10月に新規加入者が1名。

2. 活動報告

活動の安定化

前年度は職員異動に伴い当初日々の活動に落ち着かない状況があったが、継続した体制によって安定して活動が進められるようになってきた。新規加入者もすぐに環境に慣れ過ごすことができていた。

曜日ごとの主活動

クッキング・運動・音楽・制作などの主活動についても、活動の安定化を図る面から、大きく変更はせず継続して行った。

主活動として全体で一緒に取り組む時間を作り、終わった後は自由時間で個々に好きな活動をするという形で、活動を通して共同で作業する時間や、個別に対応する時間を様々な関わり方が取れるような流れにした。

その他の活動

《お手伝い》

机の消毒係や連絡帳を配る係に加えて、体操など主活動の進行をしてもらう係を増やし、主体的に取り組めるような担当を作った。利用者一人ひとりができる範囲で役割をこなすことで、やりがいを感じて取り組むことができるようにした。

3. 成果

安定したサービス内容の提供を継続することができ、平均利用者数は年間を通して事業所定員の 6 を超えることができた。10 月には、保護者のつながりから新規利用者を獲得することができた。

赤い羽根共同募金の助成金を受け、床の補修を行った。補修前は、ところどころ傷んで段差等もありケガをしたり転倒したりする恐れがあったが、利用者が安全に活動できるようになった。

4. 見えてきた課題

定員の増加による利用者の獲得

「なかよし」が年度末で閉所することになり、それに合わせて次年度から定員が 10 人となる。利用者の獲得が重要な課題になっている。

環境の整備

定員が 10 人となることで、活動に使用する机や、利用者のロッカー・靴箱などの必要な数が増えるため、新たに用意しなければならない。また施設内環境の劣化もあり、エアコンが効きづらいなど不具合もあるため、整備していく。

職員体制と支援の向上

職員が働きやすい環境を整えていくため、安心して休むことができ、職員負担を軽減しながら事業を安定して実施できる環境をつくる必要がある。

長期休み等の学校休校日の職員体制や、支援の時間以外でも学校送迎や自宅への送迎など、十分な体制を取れていないことから余裕を持って対応できるような職員配置が必要になってくる。

放課後等デイサービス事業 デイサービスポレポレ

(定員 10名)

1. 利用状況(平日/休日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20 (15/5)	20 (18/2)	22 (22/0)	21 (13/8)	20 (1/19)	22 (20/2)	22 (21/1)	21 (18/2)	20 (16/4)	20 (17/3)	21 (18/3)	21 (13/8)	250
延利用者 数	152 (113/39)	151 (143/8)	156 (161/0)	169 (107/62)	164 (8/156)	162 (154/8)	168 (161/7)	166 (151/15)	150 (117/33)	139 (126/13)	166 (143/23)	159 (79/80)	1902 (1458/444)
1日平均 利用者数	7.6	7.6	7.4	8.0	8.2	7.4	7.6	7.9	7.5	7.0	7.9	7.6	7.6

※令和6年3月 現在

【登録人数】21名

【新規利用者】4月から3名（えがおから移籍）新規利用者1名

2. 活動報告

えがおからの移籍が3名、新規利用が1名と大きな変更はなく、スムーズなスタートを切ることが出来た。

活動内容もそれぞれの能力や特性に合う内容へと変更して行った。えがおから上がった利用者に関しても、えがおの職員と情報を共有しながら、それぞれの利用者の特徴を活かして支援を行うことが出来た。そのため、大きく崩れる利用者も出ずに過ごすことが出来た。

曜日ごとの活動

各曜日でプログラムを組んで、毎日通う利用者に対しても、色々な経験が出来るようにしてきた。

《月曜日》

クッキングを行った。手順書を用いたり、手本を示すことで落ち着いて取り組むことが出来ていた。また、今まで食べたことがないものも作って食べることで食べる事が出来るようになった利用者もいた。

《火曜日》

運動を行い、晴れの日には運動公園へ行き、ウォーキングを行った。雨の日には、デイポレ内で体操を行った。体操は、その時の流行りのダンスなども取り入れて行ってきた。

9月からは、卒業後、ハーモニーへの移行を希望する利用者の様子をハーモニーの職員に見てもらうことも目的として、ハーモニーの庭で活動を行った。

《水曜日》

個々の能力に合わせた個別学習を行った。名前の練習やひらがな、カタカナの練習から、時計の読み方やお金の計算など実生活に関わる学習を行ってきた。また、月に1度はクッキングも行ってきた。

《木曜日》

作業では、今年度後半よりハーモニーで行う紙すき用の牛乳パックを切る作業を行った。子どもたちの能力に合わせてハサミで切ったり、線を引いたり、手でちぎったりする工程に分けて作業を行った。ハーモニーとも連携をしながら、作業を進めることができハーモニーへの移行をした際の作業のイメージも共有することが出来た。

《金曜日》

季節の創作活動を行ってきた。活動で作った作品は、ハーモニーの喫茶店に飾るなど、色々な方に作品を見てもらう機会も設けることが出来た。

《体験行事》

コロナ禍を明けて、外出行事を行うことが出来た。イオンモールにバスに乗って行ったり、東山動物園に行ったりすることが出来た。子どもたちには、公共機関での過ごし方やお金の使い方を学ぶきっかけになった。

3. 成果

障害者施設(ハウス・ハーモニー)との連携

就労を見据えて実習を行う際などに、利用者の様子を事前に伝えるなど情報共有を行ってきた。また、実習の様子を見させてもらったり、デイポレにハウスやハーモニーの職員が様子を見に来るなどの交流も行うことが出来ていた。今後も継続して情報共有を行っていく。

ルーティン化の活用

活動を行う際の流れを定め、作業内容も周期を決めて固定することで、自分たちで考えて活動に参加することが出来ていた。

4. 見えてきた課題

若い職員の確保

職員の若返りを目指していきたい。特に、保育士、児童指導員の求人を出す。学校への働きかけを行っていく。